

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372601148		
法人名	医療法人 永田会		
事業所名	グループホームげんきの家 あんず		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町辛川1923-1		
自己評価作成日	令和5年11月3日	評価結果市町村受理日	令和6年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な雰囲気の元気の家」「一人一人がその人らしい生活を送れるげんきの家」「自然環境を楽しめるげんきの家」を理念に掲げ、ご利用者様一人一人を尊重した暮らしができるように、要望の把握や想いに寄り添い住み慣れた家で過ごしているような安心感を心がけています。職員一人一人がご利用者様と生活を共にしていることを意識し、アットホームな雰囲気作りを努めています。恵まれた自然環境の方で、ホームの周りには、一年を通して季節を感じていただけるよう、行事に力を入れ野菜や花を植え食事作りや外出・敷地内散歩などを楽しんでもらっています。毎日の健康管理に努め、体調の変化時などは、同法人は医療機関であり、緊急時には当院との連携を図り早急に対応を行っています。職員は、個人目標を立て、達成できるように自己研鑽に励み、また毎月ホーム勉強会を開催しスキルアップやキャリアアップに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して20年のホームは、理念をもとに年間目標をケア規範として入居者の個性やこれまでの暮らしに注視するとともに、ホームの中で楽しい日々を支援したいと花火に興じたり、長寿の祝いでは家族に手紙を依頼する等職員の工夫が随所に表われる等、しっかりとした目標管理が質の向上に直結する大きな要素の一つである。職員は入居者の少しの変化も見落とさないよう観察や気づきを持ってケアに当り、健康管理により異常の早期発見に努めている。母体病院に隣接するというスケールメリットは医療面での連携の他、食事支援や委員会活動、個別機能訓練では3ヶ月毎のPTIによる評価等に表われている。入居者と職員の労いながらの生活ぶりや会話の絶えないホームは一層家庭観を醸し出している。運営推進会議も対面開催となり活発な質疑応答や、認知症への理解を深める役割を果たしており、今後も認知症ケア推進を果たされることと大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた年間目標を立て、具体策に沿ったケアを心がけている。また、理念と年間目標を意識出来るように、玄関や事務所に提示している。	この2年間、職員体制に大きな変動く、理念に則した年間目標を立てている。「一人ひとりがその人らしい生活」が送れることを根本に置き、利用者の思いに寄り添ったケアの実現のための具現化や、利用者の健康管理・安全管理の徹底等为目标としてケアに直結させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、地域行事に参加していたが、コロナ禍の影響で行事が中止になることもあり交流は出来ていない。	地域の行事等が中止され、地域との関係は希薄にはなったものの、町中ドライブに出かけると昔を想い出されたり、ショッピング等地域生活を楽しむよう支援している。外出への制限はあるものの、今できる地域の中での生活を支援している。	これまでは子ども会とのクリスマス会やボランティアの受入れ、また、職員は廃品回収に出かけながら住民との交流等に取り組まれていた。コロナやインフルエンザ等を鑑みながら、出来る事から地域住民との交流の再開や地域の一員としての活動を再開いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員や家族に会議や面会時に発信している。地域の方からの見学や問い合わせ時に対応を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催しホームの近況報告や活動内容、事故報告を行っている。委員メンバーやご家族からの質疑応答を行っている。	行政や社協、区長・民生委員、法人からの参加の他、家族には輪番での参加として参加の無い家族には書類と質問票の郵送により意見等を引き出している。コロナ禍による書面開催から対面開催となり、ホームからの情報提供(職員体制として特に夜間時対応、インシデント、転倒事例等)による質疑応答や、認知症への理解を深める機会として運営推進会議の開催意義が表われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で伝えている。また、市町村担当者からの情報を得るようにしている。日頃から連絡や相談などを行い協力関係を築けるよう行っている。	運営推進会議を通じた情報の発信とともに不明な事案等を相談している。また、町の高齢者保健福祉計画及び事業計画策定の一員としてホームも関わることで、行政との関わりが深まっている。社会福祉協議会からも運営推進会議に参加されており、会議の中での意見交換や空状況等の問い合わせも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームで身体拘束に関する勉強会を行い、理解を深め身体拘束のないケアに努めている。	毎月院内での身体拘束廃止委員会に参加し、院内研修やホーム内での研修により意識を強化させている。日々のケアのなかで特に言葉使い(スピーチロック)にはお互いが注意喚起している。入居者の立ち上がりの状況を見てホールを一緒に歩く等一人ひとりの外出傾向等を把握し適切に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を行い、外部研修へも参加をし、日々のケアの中で注意すべき点が無いか指摘合っている。言葉遣いや態度へも注意を払い虐待に繋がらないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームでの勉強会で学ぶ機会を設けている。また、外部研修へ参加し知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧な説明を心がけ不安や疑問があれば説明を行っている。その後も不安や疑問等がある場合は説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。ご家族へ運営推進会議での資料を送付し意見や質問を得るように行っている。ご家族の訪問時には日頃の様子を伝え、意見や要望を聞き取り職員間での情報共有を行っている。	家族の面会時や排泄用品等の持参時に入居者の様子を説明し、意見や要望等を聞き取りする他、ホーム側から相談や提案をしている。敬老の日に合わせ家族にメッセージをお願いしたり、毎日感染状況を連絡することで家族の不安軽減に努めた事例もある。運営推進会議も問題提起の場として家族からの意見等を収集する他、げんきの家便りを情報発信源としている。	家族との交流の計画は中止されており、安全面に配慮しながら家族と交流する方法を検討いただきたい。今後も家族への情報発信を継続いただき、訪問の難しい家族の安心に繋がれることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりカンファレンスや申し送りの場などで意見を言えるような機会をつくっている。定期的に個人面談も行っている。	朝からの申し送りや申し送りノートを介して職員の意見や提案を出す機会とする他、管理者も現場に入り問題発生時に随時検討する等管理者を中心として風通しの関係が築かれている。個人面談や日々の職員の意見等が入居者へのより良いケアとして生かされ、この2年異動や離職も無く働きやすい環境が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境作りや整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内での研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で同業者との交流は出来ていない。管理者は市町村での高齢者保健福祉推進委員会委員へ委嘱され活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居者様が少ないが、ご本人が安心してできるよう寄り添い信頼関係を築くことができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの想いや不安、要望等をゆっくりと聞くことが出来るよう行っている。その後も要望等があれば早急に対応し信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の想いや意向を基に支援方法を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状況を把握し職員間で情報共有を行っている。ご本人様の主体的な力が引き出せるような支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に状況説明を行い、関係性が保たれるような支援を行っている。ご家族様にしか出来ない役割を理解して頂き協力してもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外出する機会は減ったが、馴染みの方との窓越しでの面会やかかりつけ医などへ外出できるようにしている。	これまでの生活歴や趣味や特技等を把握し、好きな事をして暮らしたい等をニーズとする等馴染みの関係が途切れないように支援している。塗り絵やパズル、書写、読書等の継続やショッピングの支援、友達からの電話や手紙、散歩時に野菜の育ち具合を見たり、秋の大祭馬追見学や七夕短冊作り等継続して支援している。入居者と職員との関係も構築し、会話の絶えないホームである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を見極め状況に応じて席の配置やレクレーションでの時間を利用している。職員が入ることで会話が出来より良い関係性が続くように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談などしやすい関係性に努めている。対応ができることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の想いや意向を日々のケアのなかで把握し、困難な場合はご家族様から聞き取りやコミュニケーションや観察を行いケアに努めている。	入居者からは希望等申し出少なく、職員が選択肢を投げかけたり、入居者の様子を見てトイレではないかと推察する等行動や言動から推察している。耳が聞こえづらくなってきた入居者にはジェスチャー等非言語的なコミュニケーションを駆使しながら思いに応えている。また、家族の情報をケアプラン作成に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に聞き取りを行い職員間で情報共有している。また、ご本人様との日々の会話から情報を得ておりご家族様とも情報共有行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を観察し把握できるように行っている。個人記録やミーティング、申し送りノートを活用し把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書やモニタリングは職員間で取り組んでいる。ご家族様の訪問時などを利用し意見や要望の聞き取りを行い介護計画書に反映している。	入居にあたり、まずは本人に会いに出向き状況を把握し、当所は頻回にプランを見直している。見直しに当たっては、職員が気づいたこと・観察の結果をモニタリングシートに記し話し合いを行い、ケアカンファレンスとしてヒヤリハット事例や食事形態等を検討している。入居者の意向や家族の思いの実現に向け、入院前の生活に戻すことを長期目標としてその達成に向けたADLの維持向上等具体的なサービス内容のプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の状況や様子など記載している。カンファレンスノートや申し送りノートを活用し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況や希望に応じて、出来る限り柔軟に対応できるよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で地域との交流は出来ない。ホーム内でご本人様の力が発揮でき楽しんで暮らしていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の意向に応じてかかりつけ医との関係を築いている。併設する医療機関での定期受診や緊急時は連携を図り適切な医療が受けられるように支援している。	在宅時からのかかりつけ医の継続等本人・家族の希望に応じて支援している。かかりつけ医への受診には家族が付添うこととして、情報提供書を家族に渡している。母体医療機関への受診(内科)は職員が対応しているが、専門医への受診は家族の対応とし、急な受診も家族の希望される病院としている。職員は健康管理(バイタルチェック等)を徹底し、異常を早期に見極め、受診や必要によっては往診等の対応とする等併設医療機関と連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を配置し健康状態の把握を行っている。健康状態に変化があれば、看護職と連携をとり適切な受診や対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は情報提供書やカンファレンス等で情報の共有を行っている。ご家族様や病院関係者と連携を図り、情報交換を行い関係作りに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針についてや心身状態の変化がみられた時の説明を行っている。ご本人様やご家族様の意志を尊重し柔軟に対応出来るように取り組んでいる。	入居時に重度化・終末期に向けた指針をもとに説明し、必要な時点で主治医が入居者の状態を伝えた上で今後に向け家族の意向を確認している。最期の時は医療機関とされる家族が大半で有り、ホームの看取りは事例はないものの、今後も家族の気持ちを大切にしながら、希望があれば終末期ケアを行いたいとしている。	入居者の急変時には管理者へ連絡する体制としている。終末期ケアについては職員が不安をせずに対応できるよう、職員教育を今後は行いたいとの意向も聞かれた。目標の中に職員の資質向上も上がっており、研修の開催が職員の不安払拭の一環につながることと期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時対応の勉強会を行っている。急変後や事故発生後は、事例検討を行い周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災訓練を実施している。コロナの影響で地域の方の参加はないが運営推進会議で報告を行っている。	昼・夜を想定した火災訓練を実施している。防火管理者を中心に訓練の目的や誘導の手順、問題点と評価を明らかにして司会の訓練に生かしている。その結果は運営推進会議でも報告している。ホームの環境整備チェック表にて安全点検を月に数回行い、備蓄は二週間分を法人で管理している。	運営推進会議の中で年1回は災害訓練を組み入れることでホーム内を知ってもらおうとしていたが、感染対策を徹底することに注視し、最近には行っていない。感染症の状況によって、運営推進会議を活用した訓練を計画されることが期待される。参加者にも入居者の状況把握や入居者も参加されることにより認知症ケア啓発に繋がると思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、その方に応じた声かけや対応を心がけている。特に、排泄や入浴時は、自尊心を傷つけないような声かけやプライバシーの確保に努めている。	入居者一人ひとりを尊重し、プライドを傷付けないような対応を心がけており、特に言葉使いには注意していることがチェックリストでの振り返りに表われている。呼称は苗字にさんづけとしているが、これまで呼ばれていた名前でも応じ、入居者に分かりやすい表現としている。職員は個人情報保護や守秘義務について共通認識を持ち、情報漏洩等十分注意を払うよう心がけている。また、写真の掲示等家族の同意の上としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様に要望や希望を伺い、思いを言えるよう働きかけ自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の状況をみながら、職員本位なケアにならないように心がけている。また、ご本人様の希望やペースに合わせ柔軟な対応を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様に服を選んでいただいたり、髪カット時はご本人様が好むカットをご自分で伝えることが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で収穫した野菜を使い、食事作りを行事に取り入れている。下膳などご本人様の出来ることを把握し職員と一緒にやっている。	食事は、昼・夜の副菜は母体病院調理室からの提供であるが、主食や汁物及び朝食はホームで調理している。毎月入居者毎の栄養ケアについて話し合うとともに、法人での栄養委員会での検討等により夏場の食中毒や誤嚥が起こるメカニズム等を共有している。月に1回入居者の希望を取り入れた食事作りに取り組んでいる。更に菜園での季節毎に野菜等を育て、入居者も育成や収穫等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量をチェックしている。個々に合った食事形態や量を提供している。食欲低下がみられる方に対しては、食事形態や時間、空間に配慮している。また、献立とは別にお好きな物を食べていただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行いご利用者様に合わせた対応で口腔ケアを行っている。なるべくご本人様でして頂き必要に応じて支援している。また、歯科医や衛生士に口腔ケアについて助言を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し自立に向けた支援をしている。トイレを伝えることが困難な方へは、ご本人様の様子を観察しトイレで排泄できるように支援している。	日中はトイレでの排泄を基本として自立され方の継続を支援、訴えない方には時間や様子を見ながらトイレへ誘導している。入居者個々の尿量や間隔等を把握し、排泄用品を検討し、夜間帯はバットの大きさや交換タイミングを職員間で共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や定期的な水分補給、運動による排便コントロールを行っている。毎日、排便チェックを行い状況に応じて、下剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望や状況に合わせて週3～4回の入浴を行っている。拒否のある方への声かけやタイミングの工夫をしている。季節に応じてよもぎや菖蒲湯を楽しんでもらえるように支援しています。	入居者の状況により1日毎に午前・午後に入浴を支援し、入浴拒否がある場合には時間をずらしたり、手伝いをお願いしてそのまま入浴に繋げる等無理強いないよう工夫している。散歩中に摘んだよもぎ等も活用して入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、ご本人様の希望や状況に合わせて休息してもらっている。居室の温度加湿などに留意し安心して休んでいただけるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬されている薬名などは、個人のファイルやホーム独自のファイルに綴じ、いつでも確認しやすいように工夫している。内服変更時は申し送りノートに記入し情報共有をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の好きなことや得意なことを把握し支援している。家事や散歩など役割を活かし支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出の場所が限られたが、ドライブなどを行っている。散歩やホームの畑や季節の花などを眺め楽しんでもらえるように支援している。	外出先が制限されたが、車中から地域の様子を季節の雰囲気を楽しんでもらう等出来ることで戸外に出る機会を作っている。散歩中に野菜の出来具合をみて収穫したり、庭に椅子を並べて花火に興じる等外出が難しい中でも、庭での活動が生活の彩りとなっている。また、少人数でのショッピング、仲の良い入居者同士での外出、コスモス見学、家族との受診等今できる外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援時は、ご本人様にお金を所持してもらい支援している。ご利用者様の希望があれば購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎも行い、ご本人様からの電話や手紙の支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に応じた壁画をご利用者様と創作している。また、季節にあった飾り付けや花を取り入れている。共有空間では掃除や室温、換気に留意し快適に過ごせるよう配慮している。	壁面の飾りは入居者と一緒に行い、これまでの作品を共有空間に掲示し振り返ってもらっている。リビングを囲むように居室が配置されており、日中は体操やレクリエーション、調理等に率先して参加されている。テーブル席は、必要によって見直し、入居者が居心地の良い場所となるよう検討している。開設から20年を迎えているが、職員の手で安全且つきれいに維持されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の関係性を把握し、テーブル席に配慮している。気の合ったご利用者様で、談話やテレビ鑑賞などをして、過ごしてもらえるように柔軟に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使用されていた物やご家族様からの写真や手紙を飾るなどを行い居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には入居者の馴染みの品が持ち込まれ、掲示コーナーには家族写真や手作りの作品が飾られている。現在、居室で面会は中止しており、タンスや小物の整理、衣替え等担当職員が行っている。入居者自身にできることをしてもらい、担当職員が見直した居室は清潔感のある居室環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を飾り、トイレには表示などを行いご本人様の不安がなく分かりやすいよう工夫している。		